

外科領域における T-3262 の臨床的検討

鈴木文雄・相川直樹・高橋孝行・石引久彌

慶應義塾大学医学部外科*

古 谷 健 二

田無病院外科

新しい経口用ピリドンカルボン酸系合成抗菌剤である T-3262 を浅在性化膿性疾患を中心とした外科領域感染症 14 例に投与し、その臨床効果および安全性について検討をおこなった。

投与法は本剤 1 回 150 mg を 1 日 3 回内服とし、投与期間は 3 日から 7 日間、総投与量は 1.35 g から 3.15 g であった。臨床効果は 14 例のうち有効 13 例、やや有効 1 例で有効率 92.9% (13/14) であった。

本剤による副作用と思われる自覚症状、所見および検査値の異常は認めなかった。

Key words : T-3262, 外科的感染症

T-3262 は富山化学工業(株)が開発された新しいピリドンカルボン酸系の経口抗菌剤である。T-3262 はグラム陽性菌をはじめ、グラム陰性菌、嫌気性菌に対して、強い抗菌力を示し、広範囲な抗菌スペクトラムを有することを特徴とする。特に *Staphylococcus aureus*, *Streptococcus* spp., *Enterococcus* spp. などのグラム陽性菌、ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌や *Peptostreptococcus* spp., *Bacteroides fragilis* などの嫌気性菌に対して従来のピリドンカルボン酸系抗菌剤よりも強い抗菌力を示す。さらに種々の薬剤耐性菌に対しても優れた抗菌力を有す。

われわれは本剤を 14 例の外科的感染症の患者に使用し、その臨床効果と副作用について検討したので報告する。

I. 対象および方法

対象は昭和 61 年 9 月から昭和 62 年 5 月までの間に当科および田無病院外科で扱った外科的感染症の外来通院患者 14 例である。患者年齢は 22 歳から 83 歳、平均は 44.1 歳、男性 9 例、女性 5 例であった。感染症の内訳は、感染性粉瘤 2 例、蜂巣炎 2 例、瘰癧 4 例、臍炎、癰、感染性毛嚢囊、腹壁膿瘍、感染創、鼠径リンパ節炎各 1 例の合計 14 例であった (Table 1)。

T-3262 は、1 回 150 mg を 1 日 3 回、食後に経口投与した。投与期間は 3 日から 7 日で、総投与量は 1.35 g から 3.15 g であった。

臨床効果判定の基準は、外科的処置の有無にかかわらず本剤投与開始後 3 日以内に感染症に関連した自覚症状、所見の改善を認めたものを有効 (Good)、自覚所

見の改善にそれ以上の日数を要したものをやや有効 (Fair)、不変または増悪したものを無効 (Poor) とした。

副作用の検討としては、本剤投与に関連した副作用と考えられる自覚的症状、所見、ならびに本剤投与前後の臨床検査値の変化を観察した。

II. 成 績

1. 臨床効果

各症例における本剤投与量、分離菌および臨床効果を Table 1 に示した。症例 1 は左頸部の感染性粉瘤の患者で Cefroxadine 投与を行っていたが、効果なく、切開排膿し本剤を投与した。本剤投与開始 3 日後、疼痛が軽快し、腫脹、排膿も消失したため有効とした。症例 2 も感染性粉瘤の症例であったが炎症所見が軽度であったため、摘出術を施行、創を開放し本剤投与開始し、臨床効果は有効と判定した。症例 3, 4 は左膝部、右第一指蜂巣炎の患者で症例 4 には切開排膿も行った。ともに炎症所見の改善がみられ有効とした。症例 5 から 8 は右拇趾瘰癧の患者で、症例 5, 7 には本剤開始前に抜爪を行った。症例 5, 6, 7 は有効であったが、8 は本剤投与開始 4 日後に発赤、腫脹、排膿の消失を見たものの、熱感 は持続したためやや有効とした。

症例 9 は、臍炎の患者で本剤使用 4 日後、熱感、疼痛が消失し、腫脹、排膿も認めなくなったため有効とした。症例 10 は顔面癰の自潰、排膿を認めた症例で、本剤投与開始後症状、所見が改善し有効とした。症例 11 は毛嚢囊に感染を起こした症例で、切開排膿後に本剤投与開始し、疼痛の軽減、膿の減少を認めたため有効とし

Table 1. T-3232 in surgical infections

No.	Case	Age/Sex	Diagnosis	Treatment			Clinical isolates	Clinical effect	Side effect	Remarks
				Daily dose (mg×times)	Duration (days)	Total dose (g)				
1.	T.K.	30/M	Infected atheroma	150×3	5	2.25	<i>Propionibacterium acnes</i>	Good	—	Drainage
2.	R.O.	83/M	Infected atheroma	150×3	3	1.35	N.D.	Good	—	
3.	K.K.	26/M	Phlegmon	150×3	5	2.25	N.D.	Good	—	
4.	Y.S.	51/F	Phlegmon	150×3	5	1.95	<i>Staphylococcus warneri</i> <i>Enterococcus faecalis</i> <i>Escherichia coli</i>	Good	—	
5.	F.T.	71/F	Panaritium	150×3	4	1.80	N.D.	Good	—	Partial removal of the nail
6.	M.S.	25/M	Panaritium	150×3	4	1.80	N.D.	Good	—	
7.	F.I.	59/F	Panaritium	150×3	4	1.80	N.D.	Good	—	Partial removal of the nail
8.	M.M.	26/M	Panaritium	150×3	4	1.80	Negative	Fair	—	
9.	T.K.	69/F	Omphalitis	150×3	4	1.80	<i>Staphylococcus epidermidis</i>	Good	—	
10.	U.A.	72/F	Furuncle	150×3	3	1.35	N.D.	Good	—	
11.	T.M.	23/M	Infected pilonidal cyst	150×3	6	2.70	<i>Staphylococcus epidermidis</i> γ -hemolytic streptococcus	Good	—	Drainage.
12.	K.S.	39/M	Subcutaneous abscess	150×3	7	3.15	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	Good	—	
13.	K.E.	22/M	Wound infection	150×3	4	1.80	Negative	Good	—	
14.	K.S.	22/M	Acute lymphadenitis	150×3	5	1.95	N.D.	Good	—	

N.D. : Not done

Table 2. Clinical effect of T-3262

Diagnosis	No. of cases	Clinical effect				Efficacy rate (%)
		Good	Fair	Poor	Unknown	
Infected atheroma	2	2				2/2 (100)
Phlegmon	2	2				2/2
Panaritium	4	3	1			3/4 (75.0)
Omphalitis	1	1				1/1
Furuncle	1	1				1/1
Infected pilonidal cyst	1	1				1/1
Subcutaneous abscess	1	1				1/1
Wound infection	1	1				1/1
Acute lymphadenitis	1	1				1/1
Total	14	13	1	0	0	13/14 (92.9)

Table 3. Isolated organisms and clinical effect of T-3262

Isolated organisms	No. of strains	Clinical effect			
		Good	Fair	Poor	Unknown
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	2	2			
<i>Enterococcus faecalis</i>	1	1			
<i>Staphylococcus warneri</i>	1	1			
γ -hemolytic streptococcus	1	1			
<i>Escherichia coli</i>	1	1			
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1	1			
<i>Propionibacterium</i> s.p.	1	1			
Total	8	8	0	0	0

Table 4. Bacteriological response to T-3262

Isolated organisms	No. of strains	Bacteriological effect				
		Eradicated	Reduced	Replaced	Unchanged	Unknown
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	2	1		1		
<i>Enterococcus faecalis</i>	1	1				
<i>Staphylococcus warneri</i>	1	1				
γ -hemolytic streptococcus	1			1		
<i>Escherichia coli</i>	1	1				
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1	1				
<i>Propionibacterium</i>	1	1				
Total	8	6	0	2	0	0

た。症例 12 は急性虫垂炎に由来する汎腹膜炎術後、ドレーン刺入部に皮下膿瘍を起した症例で、創部より排膿があった。本剤投与後症状の改善を認めたため有効とした。症例 13 は右足首挫創感染の症例で、Cefaclor 投与を行っていたが効果認めないため、本剤に変更したところ、症状軽快、有効と判定した。症例 14 は左鼠径部急性リンパ節炎の症例で本剤投与により炎症所見消失したため、有効とした。

以上を総合すると、全 14 例中有効 13 例、やや有効

1 例で、有効率 92.9% (13/14) であった (Table 2)。

感染症 14 例中、臨床試料より細菌が分離されたものは 5 例で、うち 3 例が単独菌感染、2 例が複数菌感染であった。分離菌の総株数は 8 株で、グラム陽性球菌 5 株、グラム陰性桿菌 2 株、嫌気性菌 1 株であった。分離された全菌種に対し、臨床効果は有効と判定された (Table 3)。

細菌学的効果は 5 例で検討できたが、消失 3 例、減少 1 例、菌交代 1 例であった。菌種別にみた細菌学的効果

を Table 4 に示した。菌消失率は、グラム陽性球菌 3/5 (60%)、グラム陰性桿菌 2/2、嫌気性菌 1/1 で、全体では 6/8 (75%) であった。

2. 副作用

本剤投与期間中、14 例いずれにも、本剤による副作用と思われる自覚的異常所見は認めなかった。

本剤投与前、投与中ならびに投与後の臨床検査を施行できたのは 2 症例のみであったが、ともに臨床検査値の異常は、認められなかった。

III. 考 察

T-3262 は広い抗菌スペクトラムを有し、各種の抗生剤耐性菌に対しても抗菌力を示す有用な経口抗菌剤として、その臨床応用が期待されている。

われわれは、主に皮膚・軟部組織感染症を中心とした外科的感染症 14 例に本剤を経口投与し、その臨床効果

と副作用について検討した。

外科的感染症に対する本剤の臨床効果は、14 例中有効 13 例、やや有効 1 例で、有効率は 92.9% と良好であった。

本剤の細菌学的効果を菌消失率でみると、6/8 (75%) であった。

本剤による副作用と思われる自覚的所見および臨床検査値の異常は認められなかった。

以上われわれの得た本剤の臨床効果、副作用の検討結果から T-3262 は外科的感染症、特に外来治療されることの多い皮膚・軟部組織感染症の治療に適応をもちうる経口抗菌剤であると考えられる。

文 献

- 1) 第 34 回日本化学療法学会東日本支部総会、新薬シンポジウム。T-3262, 1987

T-3262 IN SURGICAL INFECTIONS

FUMIO SUZUKI, NAOKI AIKAWA, TAKAYUKI TAKAHASHI and KYUYA ISHIBIKI

Department of Surgery, School of Medicine, Keio University
35 Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160, Japan

KENJI FURUYA

Department of Surgery, Tanashi Hospital
Tanashi City, Tokyo

Clinical studies on T-3262, a new pyridone-carboxylic acid, were performed in 14 patients with surgical infections, including 13 cases of skin and soft tissue infections.

T-3262 was administered orally in a dose of 150 mg three times a day, and the total dose per patient ranged from 1.35-3.15 g.

The clinical effect was evaluated as good in 13 and fair in 1 patient. The efficacy rate was 92.9% (13/14).

No adverse effects related to T-3262 administration were observed.